

弘大COI 最高評価



弘前大学COIが弘前市岩木地区で毎年行っている「岩木健康増進プロジェクト健診」―昨年11月16日

弘前大学を拠点に行っている健康増進研究プロジェクト「弘大COI」が、国立研究開発法人・科学技術振興機構（JST）による総合評価で、最高の「Sプラス」評価を受けたことが3日、同大への取材で分かった。過去2回の中間評価でも「S」「Sプラス」を獲得しており、全国18カ所にある文部科学省の大型プロジェクトCOI（センター・オブ・イノベーション）のうち、3回連続のS獲得は同大が唯一となる。（福士和久）

健康研究 唯一の3回連続

評価の公表は2016年から3年ごとに行っており、高い順にS、A、Dの5段階。Sの中でも高い評価には「プラス」を付与する。

弘大COIでは、弘前市岩木地区住民が参加する「岩木健康増進プロジェクト健診」や「いきいき健診」で得た健康ビッグデータを解析し、疾患発症の人工知能予測モデルを開発。検査項目をメタボやうつ病などに絞り込んで健診日のうちに結果を通知する「QOL健診」モデルを考案するなど、多くの成果を挙げた。

弘大COI拠点長の中路重之・大学院医学研究科特任教授は「県内の産官学民が連携して『短命県返上』

中路氏「短命返上近づいた」

の共通の目標に向かっていったことが、全国的に見ても極めてまれな取り組みだった点で評価された。あとは実際に短命県を返上でできるかどうかだが、だいぶ近づきつつある」と語った。

弘大のプロジェクトは13年に文科省がCOIに採択。9年間にわたり国が財政面などで支援を続け、本年度が最後となる。

弘大は新年度、実質的にCOIの後継となるJSTの「共創の場形成支援プログラム（愛称・COIネットワーク）」の採択を目指す。

弘大COIは18年度に「第1回日本オープンイノベーション大賞」（内閣府など主催）の総理大臣賞、19年度に「プラチナ大賞」の大賞・総務大臣賞、20年度に「イノベーションネットアワード2020」の文部科学大臣賞を受賞するなど高い評価を受けてきた。